

けん ない いちばん ふる た ほう どう
県内で一番古い多宝塔です！

へん じょう じ かま くら じ だ い す やま し めい だ かき おか うつ つた しん ごん しゅう じ いん
遍照寺は、鎌倉時代に陶山氏によって吉田から笠岡に移されたと伝えられる真言宗の寺院
です。かつては笠岡の町の中心にありましたが、現在は駅前土地画整理事業に伴って西の浜
に移転しています。寺のあった所には多宝塔と石碑、枝垂れいちょうがそのまま残されています。

た ほう どう か じゅう だん め へい めん ほう けい じょう じゅう だん め へい めん えん けい に じゅう けい しき
多宝塔とは、下重(1段目)の平面が方形、上重(2段目)の平面が円形をした二重形式の
塔のことをいいます。遍照寺の多宝塔は、江戸時代初めの慶長11(1606)年に建てられた県内
で一番古い多宝塔です。内部の壁や柱、天井には、絵師・釣雪によって極彩色の絵画が描か
れています。亀腹(ドーム状の屋根)は明治時代の修理の時に漆喰から瓦ぶぎになったといわれ
ています。塔のかたわらには、塔が完成した時に、それを祝って法華経を読んだことを記す石碑が
立っています。

だい かん さま み あ じゅ れい やく ねん きょ じゅ
お代官様も見上げた!? 樹齢約400年のいちょうの巨樹！

へん じょう じ し だ た ほう どう た きねん う
遍照寺の枝垂れいちょうは、多宝塔が建てられたのを記念して植えられたといわれています。
みき しゅう い たか やく すい てい じゅ れい やく ねん えだ た さ
幹の周囲3.8m、高さ約25m、推定樹齢約400年です。枝がすべて垂れ下がっていることから
「枝垂れいちょう」と呼ばれています。本樹は雌株で、秋にはたくさんの銀杏が実をつけます。笠
岡市の市木はイチョウであり、まさに笠岡のシンボルといえる木です。



枝垂れいちょうの落ち葉





遍照寺多宝塔と枝垂れいちょう(右)



多宝塔内部 下重の天井画



多宝塔横の石碑



かさ おか めい じ じ だい

けんちようしよ ざい ち

笠岡は明治時代のはじめに県庁所在地でした！



現在の笠岡小学校の敷地は、明治時代の小田県庁の跡です。笠岡小学校のシンボルともいえる白壁の門は、小田県庁の正門だった建物です。この門は明治時代、現在の岡山市にあった戸川陣屋の長屋門を移してきたもので、瓦には戸川家の家紋である三本杉がデザインされています。小田県は、廃藩置県によって明治5（1872）年に誕生した、備中国と備後国東部を含む大きな県でした。岡山県に統合される明治8（1875）年まで、笠岡に県庁が置かれていました。



三本杉がデザインされた瓦





ひとひと がくもん ねが けつじつ しょみん かつこう
人々の学問への願いが結実した「庶民の学校」!



敬業館は、江戸時代の寛政10(1798)年にできた庶民のための学校です。当時の笠岡代官・早川八郎左衛門正紀の許可を得て、地元有志の寄附金をもとに建設されました。初代教授は小寺清先が務め、清先の子の廉之や孫の完之が教授職を歴任しました。その後、私塾を経て、明治16(1883)年に閉鎖されるまで笠岡の教育を支えました。現在、敷地の一角には生徒の寄宿舎と門が復元され、早川代官と小寺清先をたたえる2基の石碑が残されています。



小寺清先



敬業館に残る石碑



ぶく やま はん あ べ こう まね こく がく しゃ
福山藩・阿部公に招かれた国学者！

めい わ 明和7(1770)～
てん ぽう 天保14(1843)年



小寺清之の墓(左から2つ目)

こ でら きよ ゆき こ でら きよ さき けい ぎやう かん しょ だい きやう じゆ ちやう なん かさ おか むら う つう しょう けん もつ
小寺清之は、小寺清先(敬業館初代教授)の長男として笠岡村で生まれ、通称を監物とい
い、棟園と号しました。京都で神道、国学を学び、寛政11(1799)年、30歳のときに清先から陣
屋稲荷の宮司の職を継ぎました。後に福山藩に請われて国学の講義をすることになり、福山に移
住しました。天保14(1843)年に74歳で亡くなり、笠岡小学校裏手の墓地に葬られました。おもな
著書に『備中名勝考』、『老牛余喘』があり、『備中誌』の編者の一人としても知られています。





ぼう けん

こと ば

つく

ほん やく おう

ぶんきゅうがん

「冒険」という言葉を作った「翻訳王」！

文久元(1861)～

明治30(1897)年



森田思軒は、本名を森田文蔵といい、笠岡の西本町で森田佐平の長男として生まれました。明治時代の翻訳家・批評家として、近代文学史上に大きな足跡を残しました。代表的な業績として、ジュール・ベルヌの『十五少年』（十五少年漂流記）の翻訳などが知られています。36歳のときに病死し、東京の世尊寺に葬られましたが、笠岡小学校裏手の墓地にも分骨して墓が造られました。笠岡市立図書館に遺品などが展示されています。

森田思軒が翻訳した『十五少年』



明治29年版



明治32年版



森田思軒

26 代官 井戸平左衛門の墓

市指定史跡

アクセス 笠岡駅から徒歩
15分 威徳寺に駐車場あり

笠岡市笠岡5418 威徳寺内



おの りょうみん すく だい かん
多くの領民を救った「いも代官」さま！

かんぶん
寛文12(1672)～
きょうほう
享保18(1733)年



い ど へい ざ えもん まさあきら だい かん え ど じ だい かき おか ばく ふ ちやう かつ ち
井戸平左衛門正明は、「いも代官」としたわれる、江戸時代に笠岡が幕府直轄地だったと
きの名代官です。きやうほう ねん さい げん さい しま ね けん おお もり だい かん よく ねん
享保16(1731)年、60歳にして現在の島根県の大森代官となり、翌年から
かさ おか だい かん けん む どう じ み ぞう だい き きん はつ せい りやう みん すく ばく ふ きや
笠岡代官を兼務しました。当時、未曾有の大飢饉が発生しており、領民を救うため幕府の許
かを待たずに年貢米を人々に分け与え、サツマイモ栽培を導入して飢えをしのぎました。きやうほう
享保18(1733)年に笠岡で病死しました。墓は威徳寺にあります。



井戸平左衛門





だい かん さくら めい しよ
「いも代官」ゆかりの桜の名所です！



春の井戸公園

い どく じ となり い ど こう えん い ど だい かん たい しょう ねん ごろ じ もと こう ぐく
威徳寺の隣にある井戸公園は、井戸代官をしのんで大正2(1913)年頃に地元の高德
かい い ど かい さくら う はじ しょう わ ねん かし おか ちよう き ふ しょう わ
会、井戸会が桜を植えたことに始まります。昭和11(1936)年に笠岡町へ寄附され、昭和31
(1956)年に笠岡市都市公園となりました。公園内には100本以上の桜が植えられており、春
ねん かし おか し ど し こう えん こう えん ない ほん い じよう さくら う はる
になると私たちの目を楽しませてくれます。園内には、井戸代官をたたえた「井戸明府碑」や
い ど へい ざ えもん うた か し かん ばん
「井戸平左衛門さまの歌」の歌詞看板があります。

井戸平左衛門さまの歌
一 不作の年の飢え死にを
救う尊き心より
移し植えにし芋の種
いかで忘れんその恵み
二 おのが命を投げ打ちて
いく千万の民草を
助けあげたりけなげにも
いかで忘れんそのみとく
三 笠岡山のおくつきに
よつ(四)の位を贈られて
眠れる君の名と共に
いかで忘れんそのいさお
いかで忘れんそのいさお

28 古城山公園

アクセス 笠岡駅から徒歩15分
現地に駐車場あり

笠岡市笠岡 古城山公園



かさおか しろやま にんき はなみ
笠岡のシンボル「城山」! 人気のお花見スポットです!



春の古城山公園

古城山は、海に向かって突出した小山で、現在の標高は約68mです。名前のとおりかつての城跡で、戦国時代に村上水軍の村上隆重が築城したといわれています。古くから景勝地として知られ、山頂からは市街地や笠岡湾干拓地を一望することができます。春には笠岡随一の桜の名所としてにぎわいます。麓から山頂にかけて多くの文学碑や顕彰碑があり、散策にも適しています。山頂には車でも登ることができます。



木山捷平の詩碑





かさおか みやだい く ぎじゅつ すい あつ た じん じゃ けん ちく
笠岡の宮大工が技術の粋を集めて建てた神社建築！



稲富稲荷神社の拝殿

稲富稲荷神社は、村上隆重が古城山に城を築いたときに、城内の鎮守としてまつたのが始まりといわれています。拝殿は鮮やかな朱塗りが印象的な建築で、内部の天井には見事な花鳥、動物の絵が描かれています。棟札から、拝殿は江戸時代の文政2(1819)年、本殿は弘化2(1845)年に建てられたことが分かっています。江戸時代後期には、境内の工作物が全国各地から寄進されており、広く信仰を集めていたことが分かります。



拝殿(左)と本殿(右)



拝殿の天井

30 関梟翁の墓

市指定史跡

アクセス 笠岡駅から徒歩10分

笠岡市笠岡 古城山登山道の登り口横



え ど じ だ い か じん こ く こ が く し ゃ
江戸時代の歌人・国語学者！

てんめい 天明6(1786)～
まんえん 万延2(1861)年



関梟翁は、本名を関藤政方といい、天明6(1786)年に吉浜村で生まれました。還暦の頃から鴨(梟)の羽毛入りの服を着るようになり、梟翁と名乗るようになりました。京都で医学を学んだ後、文政元(1818)年に笠岡村へ転居し、医師になりました。また、歌人・国語学者でもあり、吉浜の菅原神社奉納『梅歌千首集録』の編集をしたほか、日本語の「ン」と「ム」の音の違いを明らかにした『傭字例』の執筆は、国語の研究史上高く評価されています。



梅歌千首集録(市指定重要文化財)





ハイキングに最適！ 応神天皇の伝説が伝わる山！



応神山



応神山からの眺望

応神山は、番町地区の北側にある標高219mの名山です。山上まで遊歩道が整備されており、応神岩（八畳岩）や夫婦岩などの露出した巨岩、奇石が目を楽しませてくれます。山上からは市街地や笠岡湾干拓地、沖合に点在する瀬戸内海の島々を一望することができます。「昔、応神天皇がこの山で狩りをされた時、風が吹いて天皇の笠を飛ばした。これは、山の神からの贈り物の前兆で、果たしたたくさんの獲物がとれたので、天皇はお喜びになった」という伝説が伝わっています。



応神岩





かさ おか ばいじゅつ いち どう あつ こ きょう ひ じゅつかん
笠岡の芸術が一堂に集まる故郷ゆかりの美術館！



ワコーミュージアムは、平成12年に常設展示室を持つ公益法人美術館として、笠岡グランドホテル内にオープンしました。日本画（池田遥邨、奥田元宋など）、油彩画、彫刻、陶芸（備前焼など）、木工、書など、郷土ゆかりの作品を幅広く展示しているほか、甲怒村の近世文書コーナーなどもあります。

また、1階通路沿いの市民ギャラリーは、近隣のアマチュア作家たちの発表の場として市民に親しまれています。



展示室内



開館時間／10:00～16:00

休館日／月曜日

入館無料

33 笠岡市立竹喬美術館

アクセス 「市民会館・竹喬美術館
前」バス停から徒歩3分 駐車場あり

笠岡市六番町1-17 ☎0865-63-3967



ちっきょうげいじゅつ みりよく あじ び でんどう
竹喬芸術の魅力をつつぱり味わえる美の殿堂！



小野竹喬

ちっきょう び じゅつ かん かさ おか し しゅつ しん に ほん が か お の ちっきょう ぎょう せき こう せい つた
竹喬美術館は、笠岡市出身の日本画家・小野竹喬の業績をたたえ、それを後世に伝える
ために昭和57(1982)年に開館しました。

お の ちっきょう けい じ しゅう わ ねん かさ おか にし ほん まち しゅつ しん さい
小野竹喬[明治22(1889)～昭和54(1979)年]は、笠岡の西本町出身で、14歳から89
歳までの75年間の画業を通して、自然の美しさを描き続けました。

ちっきょう び じゅつ かん きょう と 京都にゆかりの きん だい に ほん が に関する特別展や企画展を年間
つう かい さい 展覧会毎に常設展の展示内容を変えています。



展示室内

開館時間／9:30～17:00

(入館は16:30まで)

休 館 日／月曜日、祝日の翌日

年末年始、展示替えの期間

入館料／一般 500円(団体料金あり)

高校生以下は無料

※特別展の際には料金が変わります

きょう ど しやうほう つ ち てん どう
郷土の情報が詰まった知の殿堂！

笠岡市立図書館は、昭和53(1978)年に開館しました。現在では約19万冊を所蔵し、年間約25万冊の貸し出しを行っています。走る図書館「かぶとがに号」の運行、郷土資料の収集や、おはなし会・映画会の開催などの活動もしています。

また、詩人・小説家の木山捷平、翻訳家・批評家の森田思軒の文学コーナーや、大正時代にロシア人の子ども達を救った茅原基治船長コーナーを設けて、笠岡市出身者の顕彰をしています。



開館時間／9:30～19:00(日～金)、～21:00(土)
休館日／毎月第4月曜日、年末年始
蔵書点検期間





むろ まち じ だい しん こう いま つた の ほけ
室町時代の信仰を今に伝える野の仏！



「仏龕」とは、仏様を納めた
小部屋のことです。また、主に
供養塔として使われるこのよう
な石塔を「板碑」ともいいます。
この仏龕（板碑）は、絵師の薬
師寺横にある墓地の入口付近
に立っています。花崗岩製で、
地上高96cm、最大幅25cmで
す。正面中央には、彫りこみの
なか によらい ざ ぞう う ぼ
中に如来の坐像を浮き彫りにし
ています。銘文などはありません
が、室町時代に作られたと考え
られ、市内でも数少ない仏龕
（板碑）として貴重です。



墓地入口からの遠景



36

笠岡市立郷土館

笠岡市笠岡5628-10

アクセス「市民病院前」バス停
から徒歩5分 駐車場あり

受 付 (笠岡市立郷土館) ☎0865-63-7600

展示内容 (笠岡市生涯学習課) ☎0865-69-2155



かさ おか れき し いま つた ちい はくぶつ かん
笠岡の歴史を今に伝える小さな「博物館」!



大飛鳥遺跡出土品
(国指定重要文化財)

笠岡市立郷土館では、笠岡市ゆかりの歴史・民俗資料や発掘調査で見つかった考古資料などを展示しています。大飛鳥遺跡や長福寺裏山古墳群、津雲貝塚、関戸廃寺跡などの出土品や弥生時代の銅戈、笠岡港の力石、笠岡に関する絵図や古写真などもここで見るができます。



笠岡港の力石(県指定重要有形民俗文化財)

開館時間／9:00～17:00

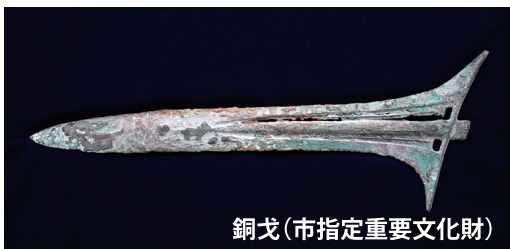
休 館 日／月曜日、祝日の翌日

年末年始、展示替えの期間

入 館 料／ 小中学生 20円

一 般 50円

(団体料金あり)



銅戈(市指定重要文化財)



はや しま こ じょうざん へんじょう じ は らん ばんじょう ぼんしょう
早島から古城山、そして遍照寺へ…波乱万丈の梵鐘！



へん じょう じ ぼん しょう たか こう けい せい どう せい つり がね に おう もん
遍照寺の梵鐘は、高さ91cm、口径55cmの青銅製の釣鐘で、仁王門につるされていま
す。もともとは室町時代の永享4(1432)年に、現在の早島町にある丑寅御前(鶴崎神
社)の鐘としてつくられたものです。小寺清之が書いた『備後略記』によると、笠岡城主
の村上氏が戦利品として持ち帰って城で使ったという伝承があったそうです。その
後、鐘は西明院を経て、江戸時代の元禄5(1692)年頃に遍照寺へ移されたといわれて
います。

梵鐘がつるされている仁王門





ふく やま はん かん たく ち よし はま
福山藩による干拓地…吉浜のシンボル！



菅原神社の本殿は、江戸時代の延宝2(1674)年に建てられたといわれていますが、建築様式からすると18世紀中頃に再建された可能性があります。

菅原神社は、延宝2(1674)年、福山藩4代藩主の水野勝種が吉浜村の氏神として造ったと伝えられています。学問の神様・菅原道真公をまつており、本殿横の玉垣には、天満宮の神紋「梅鉢紋」と水野家の家紋「抱き沢瀉」が彫られています。



吉浜開拓三百年記念碑

伝承によると、寛文元(1661)年に吉浜新田を干拓した福山藩は、干拓地を周囲の村に配分しようとしたのですが、葦が生いしげる新開地を嫌った農民たちの反対にあい、やむなく1つの村として独立させたといわれています。これが現在の吉浜です。



ぜん こく てき めすら ぜん えん うつく いし ばし
全国的にも珍しい全円アーチの美しい石橋！



菅原神社眼鏡橋とカキツバタ

菅原神社眼鏡橋は、参道の一部として境内の御手洗池にかかっています。もとは木橋でしたが、明治20(1887)年に吉浜村に住む石工の佐藤豊吉(豊造)が棟梁となって架け替えました。まるで眼鏡のような2つのアーチは、水面下でも円い全円形です。また、橋のたもとにある眼鏡橋碑には、建造の由来や寄附者の名前などが刻まれています。

5月には池に2000株ものカキツバタが咲きほこり、美しいコントラストを見せてくれます。



眼鏡橋碑

